



令和6年度 長 崎 県 障 害 者 芸術文化活動普及支援事業 レポ ー ト 集

障害者芸術文化活動普及支援事業とは

障害のある人が、なじみある身近な地域で、芸術文化を享受し、多様な活動を行うことができるように、地域における支援体制を全国に展開し、障害のある人の芸術文化活動の振興を図るとともに、自立と社会参加を促進することをねらいとしています。

全国に障害者の芸術文化活動に関わる支援センター等の設置を行い、支援の枠組みを整備し、障害者の芸術文化活動を推進する拠点づくりをしています。

令和6年度普及支援事業で取り組んだこと

令和7年度、本県での開催を控える全国障害者芸術・文化祭「ながさきピース文化祭2025」をみすえ、障がいのある方々によるアート活動をより活性化させるとともに、その魅力を地域に発信していこうと、創作活動・表現活動を外部に発表する取組みを支援する助成事業や、作品・作者の発掘と支援者・作者同士の交流を目的としたセミナー、文化施設とのネットワーク形成を目的としたセミナーに取り組みました。

また、令和3年度より取り組んでいる相談窓口の運営、ホームページでの作品紹介と情報発信にも、引き続き取り組みました。

発 行

長崎県障害者芸術文化活動支援センター

(事務局 長崎県障害者社会参加推進センター)

〒852-8104 長崎市茂里町3番24号 県総合福祉センター内

TEL : 095-842-8178 FAX : 095-849-4703

Mail : nagasaki-suishin2@mbr.nifty.com

交流&実践セミナーはじめの一步vol.2

2024年11月21日、12月18日、2025年2月6日・13日
@諫早市美術・歴史館、長崎県美術館

「交流&実践セミナーはじめの一步」は、3回の連続講座をととして、作品はあるけれど発信の仕方がわからないと感じている支援者や作者を対象に、相互の交流と、発信するための知識や手法の取得を目的に、最終的にはともに展示会を作りあげるまでを学ぶセミナーとして、令和5年度に初めて取り組みました。昨年度実施してみて、受講生のスキルアップはもちろん、支援者同士のつながりづくりや、これまで発表機会のなかった作者、作品たちの発表の場にもなり、様々な効果を感じられたセミナーとなりました。しかし、まだまだ埋もれている作品があるはず、と、今年度も「交流&実践セミナーはじめの一步vol.2」と題して実施することにしました。

今年度は、より学びの機会として充実させようと、講演形式のセミナーも取り入れました。また、展示期間を長くして前半・後半にわけ、受講者も前後半でわかれて展示作業を行うことで、展示のノウハウを学ぶ

にあたり、時間的な余裕をもたせ、学びの効果があがるよう工夫しました。展示会としても、作者ひとりあたりの作品数に制限をもうけず、作者の魅力が存分に伝わるよう企画しました。

今回も講師に県美術館の学芸員、森園 敦さんを迎え、展示会全体のキュレーションを担っていただきました。

セミナー初回のテーマは「作品の新たな魅力を発見しよう」。様々な事業所からの参加を得て、昨年度とはまた違った顔ぶれの18名でのスタートとなりました。受講者がそれぞれ作品を持ち寄り、見せ合いながら、制作の過程や、自分が感じる作者や作品の魅力を語り、他の参加者と意見を交わしました。どのように環境を整えるか、本人の気持ちを創作に向かわせるか、どんな画材を提供するか・・・などなど、創作を支援するうえでの工夫などにも話が及び、様々な学びを得る機会にもなりました。

続く第2回は、「作品をどう発信していくか考えよう」をテーマに、講演会を開催しました。

まず、九州障害者アートサポートセンター所長 樋口 龍二さんから、「展覧会のつくり方 表現作品のみせ方」と題し、講演いただきました。様々なシーンでの展示の事例を、たくさんの写真とともにご紹介いただき、障がい者アートならではの展示の工夫から、地域の関係者とのつながりの作り方、活かし方などを学びました。

続いて、県内で活動する3名のパネラー（社会福祉法人南高愛隣会 徳永玲子さん、社会福祉法人遊歩の会 馬場由香里さん、社会福祉法人悠久会 佐藤和子さん）をお招きし、活動事例報告をしていただきました。作品と会場の特性を生かした様々な展示事例、地域や他法人を巻き込む工夫など、身近な地域で展開されているいろいろな事例を知り、多くを学ぶことができました。



また、今回は展示作品の選定からキャプション内容の作成、額装などの展示準備までを、受講者がそれぞれ持ち帰り、一ヶ月間かけて取り組みました。はじめて受講された方は、慣れない作業で戸惑いも苦労も多かったようですが、完成したキャプションからは、それだけ真剣に作品や作者と向き合う時間となったことが感じられ、大変ななかにも貴重な体験となったことと感じました。

そうして迎えた第3回は、県美術館運河ギャラリーにて、「作品を展示してみよう」をテーマに、実際に展示作業を行っていきました。前半展示作業日があいにくの悪天候(降雪)で、一日後ろ倒しにしたものの、参加できない方も出てしまいましたが、なんとか作品だけは届けていただき、無事に展示を行うことができました。

今回も森園講師のキュレーションのもと、いろいろな展示のノウハウを教わりながら作業に取り組み、完成した展示場はとても雰囲気のある素敵な空間となりました。展示作業後は、展示準備や展示作業の感想を発表しあい、気づきを共有しました。



展示作業をとおして、展示手法はもちろん、いろいろなタイプの作品の展示方法を一緒に学ぶことができ、今後の発信活動に生かしていただけるのではと感じました。また、受講者同士の交流の場にもなり、これからの活動につながる予感もありました。

その後、展示会は2月7日から20日まで一般公開し、多くのお客様に見ていただくことができました。受講者とともに鑑賞に訪れた作者の方も多く、観客との交流も生まれ、セミナーそして展覧会を開催した意義を感じることができました。

来年度はいよいよ「ながさきピース文化祭2025」が開催されます。みなさんが参加できる作品展の開催も予定されていますので、県内で創作活動を楽しんでいるみなさん、この機会にぜひ、作品とともにご参加ください！

発表の機会確保事業助成事業

令和6年4月～令和7年1月、障がいのある方々によるアート活動をより活性化させるとともに、その魅力を地域に発信していこうと、創作活動・表現活動を外部に発表する取組みを支援する助成事業を実施し、今年度は「ながさきピース文化祭2025」のプレイベントや応援事業として、以下の7つの事業が参加し、県内各地で新しい交流の機会がうまれました。

わたぼうしコンサートinながさき2024

わたぼうしコンサート実行委員会

2024年9月1日
@長崎市民会館文化ホール(長崎市)

障がいのある人たちがつづった詩に曲をつけて発表するコンサートとして、毎年夏に開催されています。今年度は、「ながさきピース文化祭2025」のプレイベントとして開催されました。

作詩の部へは151編の応募があり、そのなかから7編の入選詩を選出し、一般募集で曲をつけ、コンサート当日に披露されました。さらにその中から「わたぼうし大賞」を選出。およそ300名の観客を得て大成功裏に開催されました。

★入選・奨励賞の作品は普及支援事業HP上で紹介しています！ぜひご覧ください★



ピースピース工場

(ながさきピース文化祭2025ワークショッププレイベント)

NPO法人TsunaguFamiry

2024年8月18～25日、9月15日
@みらい長崎ココウォーク、長崎県美術館(長崎市)

「ながさきピース文化祭2025」プレイベントとして、大型アート制作のワークショップを実施しました。

会場に集まった障がいのある方もない方も一緒になって、思い思いに絵を描き、様々な色・形をのせた大きな作品が完成しました。できあがった作品は、令和7年度「ながさきピース文化祭2025」において展示されます。



ちよろずちよろず音楽祭2024

NPO法人BaRaKa

2024年10月17日、19日
@五島市立福江小学校体育館(五島市)

年齢や障がいなどあらゆるボーダーを超え音楽の楽しさを共有するすばらしさを全国各地で伝えているアーティスト2名を五島に招致し、五島市在住のアーティスト・原塚祥吾氏とともに、福江小学校、鶴南特別支援学校五島分校、さらに市内不登校の会の子どもたちと演奏会を開催しました。

演奏会では子どもたちも共に即興演奏を楽しみ、交流はもとより、自発的な表現を引き出す機会にもなりました。

みんなのフェス

社会福祉法人悠久会

2024年11月1日～7日
@島原市アーケード街

話題の画家、太田宏介氏のライブペイントと、その実兄・太田信介氏による講演会を目玉に、県内で活動するみなさんによる音楽イベントや、Tシャツ、バッグ他様々なファッションアイテムに絵を描くワークショップを開催。

地域のみなさんが利用するアーケード街という利を生かし、障がいの有無にかかわらず多くの方がともに楽しむ1週間となりました。



NAGASAKI ART 2 WEEKS
アートが溢れる文化をつくる=vote展

イコールポート株式会社

2024年12月2日～15日
@HOGET(西海市)、Sorriso riso(東彼杵町)
TAKE OFF(大村市)、いろはや(島原市)
PAPA'S&MAMA'S(長崎市・諫早市・大村市)

「ながさきピース文化祭2025」に向けて、県内のアーティスト発掘と機運醸成を目的に、県内7つの店舗を展示場にして、アート作品を展示しました。

作品はどれも“そのまま飾れる”額装したアート。展示先の店舗と協力し、作品と額の選定、情報発信を実施。県内外から訪れた多くのお客様に見ていただくことができました。さらには、作品の購入、デザイン依頼、アート展の開催依頼などが寄せられ、大きな反響がありました。



ホワイトハンドコーラス長崎の結成

認定NPO法人長崎OMURA室内合奏団

2024年11月10日(ワークショップ開催)
@県立ろう学校(大村市)

聞えない子ども達が「音楽を表現する」奇跡のコーラス「ホワイトハンドコーラス」。「ながさきピース文化祭2025」で、ベートーヴェン「第九」をオーケストラと合唱団と共演披露することを目指し、全国で4番目となる「ホワイトハンドコーラス長崎」を結成しました。

まずは11月10日、ホワイトハンドコーラスNipponの指導者と長崎OMURA室内合奏団によるワークショップを開催し、「ホワイトハンドコーラス」の魅力を伝え、参加者を募集しました。

その後集まった団員25名と11月～2月まで3回の練習会を実施してきました。順調に成果が表れており、みなさんに披露する日が楽しみです！

交流芸能祭

長崎市障がい児・者施設協議会

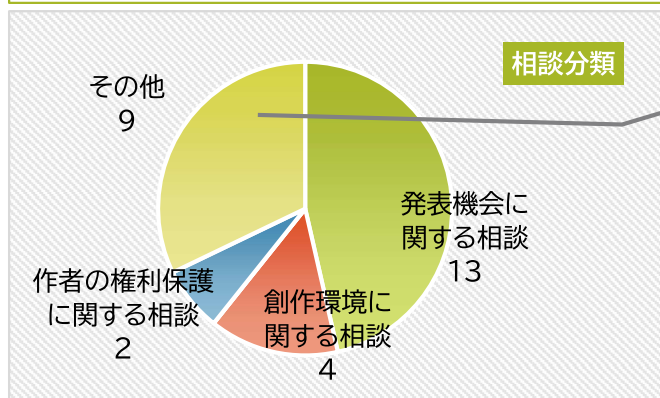
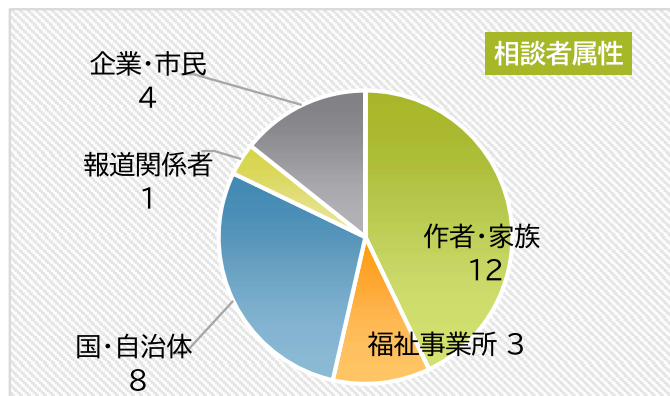
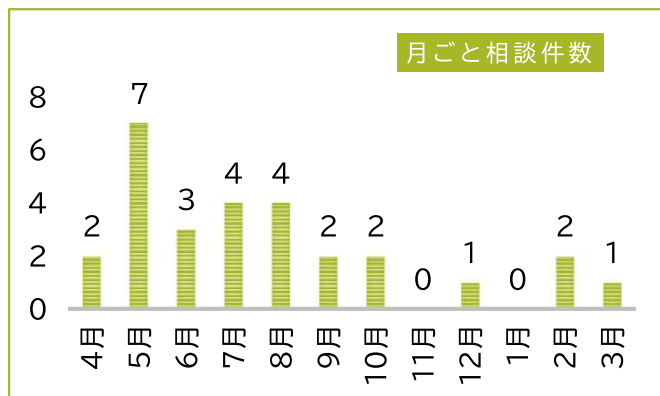
2025年2月9日
@とぎつカナリーホール(時津町)

日頃から取り組んでいる文化活動や作品の発表、生製品の販売を公共の場で行うことで障がい者の活動を広く知ってもらい、地域とのつながり・交流を深めることを目的に毎年開催しています。今年はコロナ以来、久々の開催となりました。

会員事業所はもちろん、他団体も参加し、約500名のお客様に足を運んでいただき、にぎやかな一日となりました。

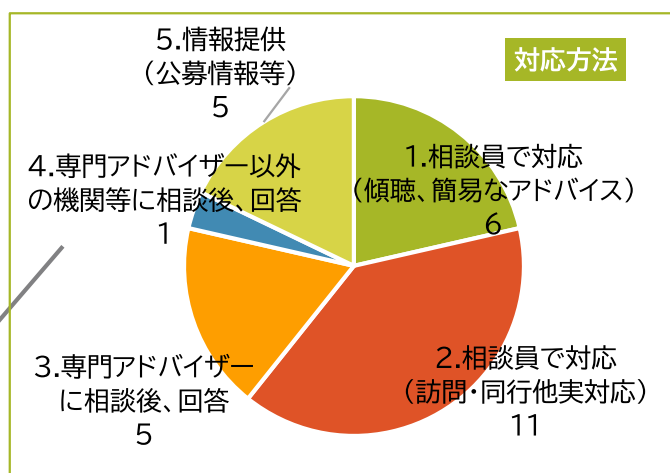
相談窓口

令和3年4月より相談窓口を開設し、弁護士などの専門アドバイザーと連携しながら、電話でのやりとりを中心に、同行、訪問等も加え、今年度は28件の相談に対応しました(令和7年3月10日時点)。



《その他》
 ◆ポスターへの作品起用に関する相談
 ◆報道番組への出演者紹介に関する相談
 ◆イベント開催に関する相談 など

《対応事例》
 ■ポスターへの作品起用に関する双方の仲介
 ■創作活動環境に関してアドバイザーの紹介
 ■イベント出演者、報道番組出演者の紹介
 ■その他情報収集、提供など



ホームページの運営

ホームページでは、県内で活動する作家の作品投稿・紹介と、県内・全国のセミナー情報、公募情報、鑑賞機会の情報など、様々な情報発信を行っています。

<https://nagasaki-artsupport.com/>



◆投稿作品は、連携している
 インスタグラムからも、見る
 ことができます。

